

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「スイッチ」の入れ方

右掲は、実によく言い表している名言と感心するものです。確かに、厄介な事案には、何か名案がないかと思案するのは人情ですね。私も思い当たる節が数多くあります。「名案」があれば、自分にかかってくるものが軽減されるので、その分、ラクができるのです。特に、トラブルなどでは、相手の怒りが自分に集中するのを避けたいので、あれこれと「名案」を当てもないのに探そうとするのです。これでは、時間ばかりが経過して、相手の怒りがますます増長して、ついには、大きなクレームになってしまうのです。

やらない人は名案を探そうとするが、やる人はできる事を探す

こういうトラブルばかりではありません。例えば、苦手な事柄は、なかなか、着手し辛いものです。私の場合、経理処理や公的機関への書類というのは、非常に苦手です。何故なら、「期日」が設定されていますが、多くの場合、1ヵ月以上も猶予があるのです。これでは、「何も、今する必要がない」と思い、億劫になって書類を放置してしまうのです。多くの場合、期日が決まっているので、その頃には思い出して「さあ、やるぞ！」と気合を入れ直して作業に取り掛かるのですが、たまに、忘れたままになるケースがあります。公的な機関なら、督促も来るので、慌てて片づけるということになります。

私の場合、こういう事態を避ける工夫として、開封して、すぐに会社名などを書き込むようにしています。何もせずに「未処理箱」に入れてしまうと記憶へのインプットが浅いのです。一字でも書き込むと頭へのインプットとなり、多くの場合、その場か近日中に作業するという流れになっています。「即着手」と言っても、いつでも、最後まで出来るとは限らないのです。しかし、何もせずに放置するのと一字でも書き込んでおくのとでは、結果に

「少しでも着手する」がキー！

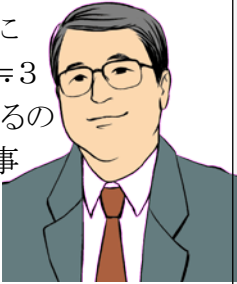
大きな差が出るのです。例えば、このMMQCニュースなどは得意な方の作業ですが、それでも、回を重ねる毎にネタ切れ状態になり、余り、得意ではないネタで記事を書くケースもあるのです。

また、得意でないので、リズム感が悪いのです。リズム感が悪いと頭の回転もスムーズに進まないのです。表現に行き詰るケースもあるのです。こういう時は、一端、手を休めて別のことに関心事を移し、焦点が凝り固まるのを避けるようにしています。右掲は、タナベ経営さんの「変革」という訓です。リズムに詰まったら、逆に戻って「やり方」を変えるということにも繋がるのです。

『変革』
自分を変え
やり方を変え
リズムを変えよう
タナベ経営

別な角度で見ると「不安」な事柄というケースがあります。未体験な事柄などは、その結果が見えないから不安になります。こういう場合、達磨大師は「不安という物を書き出せ」と教えています。ハッキリさせると解決策が見えてくるのです。右掲のワンポイント・アドバイスで船井先生の「1:1.6:1.6²の法則」をご紹介しますが、ゴールが見える事が肝腎です。逆に言えば、経験済な事柄は、1.6倍の作業効率に跳ね上がるとも言えるのです。

ワンポイント・アドバイス
やらされる仕事効率を1.0なら何をするか分かると1.6倍になり、工夫すると更に1.6倍すなわち1.6²=2.56倍に跳ね上がるのです。従って、こういう記事を書くにもゴールが見えると1.6倍の作業効率になり、自分が得意な事柄だと更に1.6倍の1.6²≒3倍に跳ね上がるのです。得意な事ばかりだと良いのです。



何事も「経験」という事がキーになります。未体験な事柄にチャレンジするには、例えば、サンプルなどで疑似体験することで効率を高めることができます。サンプルも経験の内ですが、具体的に示すことで第一歩を踏み出しやすくなるのです。これなども部下指導の際に重要な要素になります。